

庄内協同ファームだより

No.132 2010年5月号



発行/
〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
<http://www.shonaifarm.com>



小野寺喜作さんの後継者(兄弟)達です。
雨続きで、僅かの晴れ間を見ての田おこし作業。

落穂拾いに水田をどたと歩きまわっていた白鳥も北帰行をすでに終え、遠く雪を頂く月山・鳥海山はすそ野から黒い土の部分が少ないつづつ広がっていき、種まき爺さんの形に模様が見えはじめてくる。春だというのに、昨日は防寒着を着ても芯から冷える天気から今日は半袖になりたくなるような天候が毎年のように続いている。異常気象の連続だ。天気と相談しながらの農作業もなかなか大変である。

我が家では、後継者(長男は昨年の8月に帰省、二男は今年の4月に帰省)が研修中だ。

子供の頃から農作業の手伝いはしてもらったが、いざ作業の手順を伝えようとすると、専門用語・言葉の意味・何のための作業か等々思うように伝わらない。よく考えてみれば伝わらないのが当たり前だ。ほとんど一人で自分の都合だけで気ままに農作業をしていたのだ。「あそこのあのへんにあれの種をまくから起こしておいて」との妻との会話で通じていたのだ。

今は、毎朝の朝食時に、二人の研修生?と「菜あ・母家」(農家レストラン・農家民宿)を経営する妻と4人で今日の作業の内容、今後の予定等打合せをしている。農地の場所も三角とか変形田・墓の前とか暗号のような言い方から農地の地図をもとに圃場に、農業機械も弾丸で暗渠をする機械とか、バイクみたいに乗って排水を切る機械とか言っていたのが「サブソイラー」や「のるたん」という正式な名前に変更するようになった。改めて何のためにやるのかと問われて「はて?と思うことや、機械や農具の正式な呼び名、農作業名等伝わらずトンチンカンながら農作業を進めている。

しばらくぶりの土の感触に、なまっていた体が筋肉痛を伴いながら、徐々に目覚めてくる。土に触れ、菜の花の香り・色が「さあ、今年もがんばるぞ。」と気持ち奮い立たせる。

正月過ぎから、少しずつ作ってきた米糠ぼかし肥料をだだちゃ豆の畑に散布する。おいしいだだちゃ豆が今年も出来そうですよにと祈りながら。

代表代理 小野寺喜作



各部会の発表を聞いている生産者



生産者集会

菅原孝明

庄内協同ファームの生産者集会が3月21日に湯野浜 満光園で行なわれました。当法人の組合員、協力組合員が一堂に会して、昨年度の生産・環境目標を統括して、今年度の計画を確認し、今年度の農業生産をがんばろうという集会です。

有機認証に取り組んで11年経過、協同ファーム出荷総面積の有機栽培作付け割合が41%、残りの面積のほとんどが無化学肥料栽培となり、良質で自信ある農産物を生産できるようになりました。

現在にいたるまでは、数々の課題を克服してきましたが、いまだ栽培技術は道なればです。環境負荷の低減を目指し

たことで、有機栽培面積は増えましたが、生産力は大幅に減退してしまいました。そこで、私たちは、環境プログラムから学んで、生産振興プログラムを作成設定して、良質な農産物の適度な増産を目指しているところです。目指すところは、環境と身体に優しい生産力のある持続可能な農業です。

今年度は新たに栽培試験圃場を設置して、個人の努力だけではなく組織的に技術の集積を図って、有機栽培の安定生産ポイントを充実していきたいと思います。

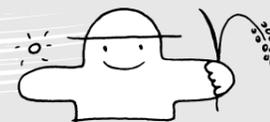
栽培方法の変化とともに、生きものの変化をじっくりと見ていきたいものです。



基調講演をする谷口教授

2010年 第10回

安全と美味しさを求めて



(農)庄内協同ファーム 生産者集会

2010年 第10回 安全と美味しさを求めて
(農)庄内協同ファーム生産者集会

主管 安心農産物生産委員会
日時 2010年3月22日(月) 開会午前9時30分
場所 湯野浜温泉 ホテル満光園 2階会議室

9:00~受付
9:30 1. 開会
2. 挨拶 代表理事
9:40 3. 「2009年度活動報告と2010年度活動計画」報告
(1) 作付実績・作付計画 事業管理部
(2) 来検査状況確認 農産加工部(農産物登録検査機関)
10:10 (3) 認証の取り組み 有機JAS会議(生産行程管理責任者)
生産履歴監査委員会
10:30 (4) 生産・環境活動
I 全体の取り組み 安心農産物生産委員会
II 各生産者グループからの報告
① 米部会
② 枝豆部会
③ 加工グループ
11:30 (5) 業務現場からの報告
11:40 4. まとめ 代表理事
11:55 5. 閉会
12:00 ~昼食

「庄内協同ファームの明日を語る会」

「庄内協同ファームの明日を語る会」を湯の浜温泉「ホテル満光園」で開催いたしました。

はじめに、基調講演「庄内協同ファームの次の一手は何か?」というテーマで、秋田県立大学の谷口教授より講演をいただきました。

全国の産直産地の現状が今どようになっているか、ファームと同じ様な農業法人の経営手法、運動に対する考え方、地域に対する関わり方や世代交代の考え方等の話がありました。今のファームの課題は、順調に歩んできた結果によるもので、これからも伸ばしていこうとしたと

きに、先生の話された事などを参考にファームに合った次の一手を考えていかなければならないと思いました。

その後、小グループに分かれ、同じテーマで話し合い、結果発表を行いました。ファームに対しては一人一人熱い思いがあり、組合員にとってファームは無くしてはならないものと感じました。

世代交代の節目を迎え、今まで道のり、これから進むべき方向を組合員一同真剣に考えた良い機会であったと思います。



事業関連の説明をしている白澤部長



開会の挨拶をする五十嵐代表理事



各グループの代表が結果発表しています



「農の雇用事業」制度による

研修を終えて



春を迎え、私

の研修生として
の一年が終わり
ました。これま

でのバイトでの作業以外に新しい作業も覚え、繁忙期には責任ある立場まで任せていただきました。言われたことをただこなすだけではなく、自分で考え、意見し、自分が思う事、できる事は、伝えたり実行することができたと思っています。

私は最初に研修生として働くにあたり、いくつか目標をたてました。ミスなく作業をこなす。研修によつ



4月にフォークリフトの運転技能講習を修了したばかりですが、がんばっています。

て農業の知識を深める。身の回りの人達とコミュニケーションをとり、また働きたくなるような職場環境を作る。というものでした。

その目標がすべて達成できたかと言えばそうではないかもしれませんが。作業上ミスも出してしまいましたし、農業についてはわからないことばかりです。しかし、私自身、常に前向きに仕事に向かいあつてきたというのは自信をもつて言えます。農の雇用事業の中で受験することになった「農業技術検定試験」にも無事合格することができ、それも自分の中で大きな自信になりました。「また来年も働きたいです」というアルバイトさんの声も大きな励みになりました。

「やるからには精一杯！」という気持ちで仕事に取り組んできた結果が、私にとってより一層やりがいのある、楽しい職場になったと思っています。商品の生産技術、品質

長い間で苦勞さまでした

この度、当法人の白澤吉博事業管理部長が4月30日付けをもって定年退職となりました。白澤さんは、平成4年12月より勤務され、18年もの永い間庄内協同ファームの発展に貢献されました。特に現加工場への建設移転時の対応、そしてJAS有機認証制度発足による体制の整備、又生き物調査への対応と啓蒙の企画など類いまれな手腕を発揮され、現在の庄内協同ファームの要となっている活動を形づくり、支え、業務を推進して頂きました。これまでのご苦勞に感謝したいと思います。本当にご苦勞様でした。



はもちろんのこと、働く環境も自信をもってお客様に「最高ですよ！」と言えるよう努力していきたいです。今年度から職員という立場で、これまでと仕事内容や責任も変わってくると思いますが、これまで以上に日々前向きに緊張感をもって仕事に取り組んでいきたいと思っています。

あとがき



庄内地方のこの時期（4月中旬）は、鶴岡市、酒田市両公園の桜の開花宣言と共に花見のシーズンに入ります。当時に、水稻の播種作業もこの頃から始まり、いよいよ春作業本番となる訳ですが、今年は、全国的に、寒気が多く、暖かい春の日差しどころかもっぱら雨模様でどうも落ち着かない天候が続いております。

その為、協同ファームの生産者が使用する、春の農業用資材（肥料など）を生産する工場の地域でも、雨や雪さらには雹も降ったりした為、肥料の乾きが進まず、例年よりも小口での荷受け状態が続くようやく全量、納品が終わったところだそうです。

田んぼも畑も雨続きで、なかなか農作業のタイミングがうまく行かないと肥料をトラックの荷台に積みながら生産者も愚痴をこぼしています。悪天候にもめげず今後の天候に期待しつつ、連休明けの田植えを目指して着々と作業は進みます。（好）